# Debian Sarge インストールドキュメント

# 目次

Debian Sarge インストールドキュメント	
<u>ハードウェアチェック</u>	3
<u>Debian Sarge での日レセのセットアップ</u>	3
<u>Debian GNU/Linux (Sarge)インストール</u>	
<u>インストーラの説明</u>	7
<u>ネットワークの設定</u>	
<u>ディスクのパーティショニング</u>	9
<u>ベースシステムのインストール</u>	
GRUBのインストール	
Debianベースシステムの設定	14
時間帯の設定	
アカウントの設定	
<u>APTの設定</u>	
<u>Debian ソフトウェアの選択</u>	
<u>追加パッケージのインストール(Xのインストール)</u>	
<u>Aptの再設定</u>	
<u>日本語コンソール</u>	
<u>x windows system</u>	
xmodmap について	
<u>sudoのインストール・設定</u>	
日レセのインストール	
apt の設定	
<u>ー</u> 日レセのインストール	
PostgreSQL の dump ファイルを使用する	
PostgreSQL $\mathcal{O}$ locale $\stackrel{?}{\succeq}$ encoding	
<u>日本語入力の設定</u>	
<u>かんな辞書の追加</u>	
<u>医療機関 ID の設定</u>	
<u>パスワード設定</u>	
Window Managerの設定	
SSHのインストール	
ネットワークアドレスの設定	
<u>2 台運用の設定</u>	
 印刷関連パッケージのインストール	
<u> 印刷キューの作成</u>	
PostScript プリンタの場合の設定	72

<u>プリントジョブ数の設定</u>	
Postscript(ポストスクリプト)プリンターの設定	
違うマシンのブラウザで設定するには	
gs(GhostScript)の注意事項	
更新履歴	

### ハードウェアチェック

OSをインストールする前にハードウェアをチェックしておくとよいでしょう。 メモリテストやハードディスクチェックツールを使用して、ハードウェアに問題がないか確認します。 チェックツールを集めた <u>Ultimate Boot CD</u>等を用意しておくと便利です。

### Debian Sarge での日レセのセットアップ

CD-ROM や DVD-ROMを使用してのインストール手順書です。 日レセを起動して印刷ができるまでを対象としています。

セットアップ環境として以下のことを前提としています。 ・既に LAN 環境があり、インターネットに接続している。 ・DHCP 環境である。 ・1 台のハードディスクに Debian Sarge をインストールする。

CD/DVD イメージは <u>http://www.debian.org/CD/</u> などから入手してください。

# Debian GNU/Linux (Sarge)インストール

CD-ROM/DVD-ROM でブートすると下のような画面になります。



Debian Sarge では使用する kernel として Linux kernel 2.4 と Linux kernel 2.6 のどちらかを選択できます。日レセはどちらでも動作しますので、使用するハードウェア等によって選択してください。

特に理由がない場合は 2.6をお勧めします。ここでは 2.6を使用します。 ENTER to boot:の後に linux26と入力して Enter を押してく出さい。



(2.4を選択する場合はそのまま Enterを押してください)

すぐに言語選択画面になります。

下の方へスクロールすると日本語がでますので選択してください。

Persian – ماريخ Polish – Polski	[11] C Choose a language: English Finnish French Galician German Greek Hebrew Hungarian Indonesian Italian Labunese Korean Latvian Lithuanian Northern Sami Norwegian Bokmaal Norwegian Nynorsk Persian Polish	hoose language - English - Suomeksi - Français - Galego - Deutsch - Eλληνικά - Πνιμ - Magyarul - Magyarul - Bahasa Indonesia - Italiano - 탄국이 - Latviški - Litviškai - Simegillii - Norsk hokmäl - Norsk hokmäl - Polski	-
------------------------------------	--	--	---

キーボード選択画面に移ります。日本語キーボード(jp106)が反転表示されていますので、日本語キーボードならば、 そのまま「Enter」を押します。



ハードウェア認識画面に移ります。



インストーラの準備のためにしばらく時間がかかります。

ハードウェアをうまく認識できれば、DHCPによりアドレスを取得します。



取得できた場合はネットワークが利用できます。次ページに進んでください。

DHCP でアドレスを取得できない場合は手動で設定することになります。



「ネットワークを手動で設定」を選択してアドレスを設定してください。

## インストーラの説明

Debian インストーラでは戻るを押すと以下のような画面になり戻ってやり直すことができます。



「おかしいな」と思うことがあったら「戻る」を選択してこの画面に戻ってやり直します。

戻ったときに反転している項目が今実行している項目ですので、忘れないようにしましょう。 選択せずにとばしてしまうと思わぬトラブルになります。

### ネットワークの設定

ホスト名(マシンの名前)の入力画面です。使用するLAN環境で固有の名前を(アルファベットで)入力してください。 ここでは orcatest と入力しています。



ドメイン名の設定

使用しているドメイン名があれば入力してください。ない場合は空でも構いません。

ドメ	イン名に	はあなたの	┤ [!] ネッ ホスト名の7	トワークの 5側に付く・	)設定 ├── インターネ	ットアドレ	ス部分で
すーでう	これは れい た ほ	たいてい、 フークをセ なかよいで	.jp、.com、 ットアップ1 するコンピ しょう。	.net、.edu しているの ュータには、	、 org な であれば、f すべて同じ	どで終わり 何を指定し ドメイン名	ます。ホ てもよい を使うよ
ドメ 	イン名:						
	<戻る> 						

### ディスクのパーティショニング

インストールするハードディスクの割り当て方法を決めます。

このとき接続しているディスクが表示されるはずですが、一部(最近のSATAディスク等)インストーラのカーネルが ディスクを見つけられない場合があります。その場合は最新のカーネルが入っているインストーラを用意することが 必要になります。

ディスクを認識できている場合は次に進みます。

ここでは「ディスク全体を消去する」を選択してすべて Debian に割り当てます。



パーティショニング機構の選択

以下の 3つの選択肢がでます。 ・ すべてのファイルを1つのパーティションに(初心者ユーザには推奨) ・デスクトップマシン ・マルチユーザワークステーション

ディスクがそれほど大きくない場合やテストインストールの場合は書かれているように 1 つのパーティションでも構い ませんが、通常は分けた方がよいでしょう。

マルチユーザワークステーションを選んでも構いませんが、ディスクの大きさによっては日レセを動作させるための 領域が足りない場合もあります。以下の指針を読んで決めてください。

[!!] ディスクのパーティショニング
これはあなたの現在の設定済みパーティションとマウントポイントの概要で す。その設定(ファイルシステム、マウントポイントなど)を変更したいパ ーティション、新しいパーティションを追加するための空き領域、あるいは パーティションテーブルを初期化したいデバイスのいずれかを選択してくだ さい。
ソフトウェア RAID の設定 論理ボリュームマネージャの設定 ガイドによるパーティショニング パーティショニングについてのヘルプ
SCSII (0,0,0) (sda) - 3.2 GB VMware, VMware Virtual S 1. 基本 1.0 GB % @ ext3 / 5. 論理 148.0 MB @ スワップ スワップ 6. 論理 2.0 GB @ ext3 /home
パーティションへの変更を元に戻す パーティショニングの終了とディスクへの変更の書き込み <戻る>

デスクトップユーザを選ぶ場合は /var を手動で追加したほうがよいでしょう。 (この例の画面はディスク容量が小さいので参考にしないでください) 使用するディスクの大きさによりますが、日レセを使用するための指針としては以下のようになります。

·/ (usr 含む) にプログラム領域 (最低 2G。通常は 5G 程度。usr を分ける場合は数百MBで十分です)

・/var にはデータベースのデータ領域なので、使用する環境によって確保すべき領域は違いますが最低 10G 程度

・/home は日レセを使用するだけなら 1G 程度あれば十分ですが、10G 程度はあった方が管理作業のときに役立ちます。

参考までに本手順書に沿って日レセセットアップを実施した直後のディスク消費量の例を以下に示します(システム 環境等により若干の増減はあります)。

	orcauser@l	ensho-sub: /home/orcauser	_ <b>_</b> X
ファイル( <u>E</u> ) 編集( <u>E</u> )	表示(⊻) 端末( <u>⊺</u> )	タブ( <u>T</u> ) ヘルプ( <u>H</u> )	
orcauser@kensho-su	b:~\$df -k		<b>▲</b>
Filesystem	1K-ブロック	使用 使用可 使用% マウント位置	
/dev/hdal	4807056	116728 4446144 3% /	
tmpfs	453368	0 453368 0% /dev/shm	
/dev/hda9	28834716	45104 27324888 1%/home	
/dev/hda8	19228276	1174608 17076920 7%/usr	
/dev/hda6	28834684	729780 26640184 3%/var	

またファイルシステムも含めた PostgreSQL データベースのチューニングを施したい場合などは、データベース領域 だけを別のパーティションに分けるのも有効かもしれません。

一旦すべての空き領域が割り当てたられた後に変更するには

1. 基本 3. 0GB /

なっているとこころにカーソルキーの上下で合わせて Enterを押し、

<mark>サイズ: 3. 0G</mark>B

を選択してサイズを変更するか、パーティションの削除をおこないます。



この後の「ディスクに変更を書き込みますか?」で「はい」を選択するまでは、実際には書き込まれませんので何度で もやり直すことができます。 利用方法(ファイルシステムの変更について)

デフォルトで利用方法: ext3 ジャーナリングファイルシステムを選択すると使用するファイルシステムを変更することができます。ファイルシステムについては簡単に結論は出せませんので、別途調べて見てください。

ここでは ext3 のまま変更していません。

「ディスクに変更を書き込みますか?」

で「はい」を選択して変更を書き込みます。

### ベースシステムのインストール

その後、すぐにベースシステムのインストールが始まります。



しばらくお待ちください。



### GRUB のインストール

Sarge ではブートローダが LILO から GRUB に変わりました。

デュアルブートにしていて既にブートローダをインストールしているなど特殊な問題がなければ、このままマスターブートレコードにインストールします。



くはい>を選択します

インストールの完了 というダイアログが表示されますのでく続ける>を選択します

これでベースのインストールが終了しました。CD-ROM/DVD-ROMが ejectされ自動で再起動します。



この後はインストールしたシステムからブートされ、初期設定と追加のパッケージインストールに進みます。

### Debianベースシステムの設定

再起動すると GRUB のメニュー画面になります。

そのまま Enter を押して最初の Debian GNU/Linux, kernel 2.6.8-2-386 を選択します。 (kernel 2.4を選択した場合は 2.4.xを選択します)



Debian ベースシステムの設定

新しい Debian システムにようこそ!

インストール処理に移る説明が表示されます。



<了解> を押して進みます。

### 時間帯の設定

時間帯を設定します。



表示さている時刻が「日本時間」とあっている場合は、ハードウェアの時計は GMT にあわせていないのでくいいえ> を選択します

(大抵のマシンは日本時間に合わせてあります。ここで表示される時間が大幅にずれている場合は

マシンの BIOS の時計がずれている可能性があります。電源を入れなおして BIOS の設定で時刻を設定してください)

すると Asia/Tokyo でよろしいですか?とでるのでくはい>を選択します。



### アカウントの設定

まず root(管理者用)のパスワードを入力します。 Linux(UNIX 全般)では root は基本的に何でも出来てしまうので、注意してください。 (良いパスワードのつけ方については別途資料を参照してください)

ebian の設定 'root'(システム管理者アカウ ます。悪意のある、あるいは覚 大損きにつながるので、rootの ようにあなたい関連する語であっ ペット・数字・記号などで混成 のパスワードは、root アカウン ます。 パスワードの入力時はパスワー root のパスワード:	sud を設定しています ント)のパスワードをここで設定する必要があり 格のないユーザが root 権限を得てしまうことは ンパスワードは簡単に推測できるものにならない に載っている単語や、あなたのミドルネームのよ てはなりません。良いパスワードとは、アルファ され、さらに定期的に変更されるものです。root ノトで 'passud' コマンドを実行すると変更でき ドが表示されないことに注意してください。
	<取消>

パスワードは\*で表されて画面には表示されません。

root:のパスワード \*\*\*\*

確認画面が出ますのでもう一度先程入れたパスワードを入力します。

続いてアカウントを一人作成します。

管理者する方のユーザアカウントを作成するとよいでしょう。

新しいユーザアカウントの本名(フルネーム)を入力してください。

(アルファベットで入力します)



アカウント名の入力

ファーストネームがアカウント名として表示されています。 "orca"ユーザはシステム的に使用することになるため、 アカウント名は違う名前にします。

ここでは orcauser と入れています。



新しいユーザアカウントのパスワードを入力してください。

確認のため、再度パスワードを入力してください。

### APT の設定

APT の設定に移ります。



先程インストールした CD-ROM にパッケージが入っているなら、cdrom を選択してディスクを読み込ませます。

別の Debian CD-ROMを探しますか?と聞かれますので選択してください。

ディスクがあれば繰り返します。



ここでネットワークから取得するようにしても構いません。http か ftp どちらかを選択すると国を選択後 Debian ミラーサイトが表示されるのでそちらから選択してください。

手動で設定を選択した場合は nano というエディタが立ち上がりますので、編集してください。

nano は CTRL+o を押すと File Name to Write: /etc/apt/sources.list と表示されるので[Enter] キーを押して保存後 CTRL+x で終了します。

終了するとパッケージ情報を取得できます。このとき取得できない情報があるとエラーとなりますので、再度スペルミスがないかどうか確認してください。

### Debian ソフトウェアの選択

インストールするソフトウェアの選択



ここで選択すると日レセでは使用しない多くのパッケージが自動でインストールされてしまいますので、なにも選択せずに<了解>を押します。

(フルセットの環境を設定したい場合はデスクトップ環境を選んでもいいでしょう)

なにも選択しない場合でもいくつか必要であろうと思われるパッケージがインストールされます。

いくつか必要なパッケージがインストール、設定されます。



続いて必須パッケージの設定になります。

#### Exim v4 を設定しています



ローカル配信のみ:ネットワークなし を選択します。

システムが root 宛にメールを送ることがあるので、それを受け取るユーザを選択する必要があります。 先ほど作成したユーザを選択します(ここでは orcauser)。

初期の設定が一通り終わると下の画面が出てインストーラが終了します。



以上でインストール終了です。 <了解>を押すとログインプロンプト画面になります。

Debian GNU/Linux 3.1 orcatest tty1 orcatest login: ■

(orcatest の部分には設定したホスト名が入ります)

続いて追加のパッケージをインストールしていきます。

### 追加パッケージのインストール(X のインストール)

日本語設定でインストールしたため出力されるメッセージが日本語で表示されますが、インストールした直後のコンソール上では日本語が化けます。

日本語を出すためには日本語コンソールの設定をする必要があります。

ここでは日本語コンソールの設定はおこなわず、そのまま X Window System の設定を済ませ、X 上で日本語を使用 することにします。

作成したユーザでログインします。

orcatest login : orcauser

Password: \*\*\*\*\*(実際には表示されません)

メッセージが表示されてログインできます。



このままだと日本語が化けるので以下のように打ち込みます。

orcauser@orcatest:~\$ LANG=C[Enter]

([Enter]は Enter キーを押してください)

(以後 orcauser はユーザ名 orcatest はホスト名です)

su と入力して root になります。

orcauser@orcatest\$ su

Password: \*\*\*\*\*(root のパスワードを入力。実際には表示されません)

rootになるとコマンドプロンプトが \$ から # に変わります。

orcatest:/home/orcauser#

### Apt の再設定

ここからさらに追加でパッケージをインストールして行きます。フルインストール DVD-ROM であれば、ここでインストー ルするパッケージが取得できますが、そうでない場合はネットワークから取得できるように apt-line を再設定したほう がよいかもしれません。

apt-setup と入力して apt-line を再設定します。

orcatest:/home/orcauser# apt-setup[Enter]

簡単に済ますなら http → Mirror Country : Japan → リストの中から選択

で良いでしょう。自分が使用しているミラーサイトが別にあれば手動で設定します。Aptの設定の部分を参考に設定してください。

### 日本語コンソール

この後 Xを起動させるまでは、日本語が表示できないので、英語モードで設定を説明していますが、どうしても日本語の説明を見て設定していきたい場合は、以下のコマンドをうって日本語コンソールにしてください。

([Enter]は Enter キーを押してください)

orcatest:/home/orcauser# modprobe vga16fb[Enter]

orcatest:/home/orcauser# modprobe fbcon[Enter]

orcatest:/home/orcauser# export LANG=ja\_JP.EUC-JP[Enter]

orcatest:/home/orcauser# jfbterm -q -c other, EUC-JP, iconv, UTF-8[Enter]

exit と打つと元に戻ります。ユーザの切り替え等で戻ってしまった場合は再度 jfbterm -q -c other, EUC-JP,iconv,UTF-8 と打ってください。

### x windows system

準備が整ったらx window system に必要なパッケージをインストールします。

#### 改行を入れずに1行で次のように入力してください

orcatest:/home/orcauser# aptitude install x-window-system-core gnome-core gdm ttf-kochi-mincho ttf-kochigothic[Enter]

(Sarge から apt-get に代わって aptitude コマンドを使うことが推奨されています。 apt-get も使うことができますが、 aptitude を使う場合は apt-get はなるべく使わないようにした方がよいでしょう。 apttitude は apt-get の代わりとしての機 能をほぼ備えています)

#### 画面がスクロールして大量のパッケージが表示されます。

0 packages upgraded, 215 newly installed, 0 to remove and 0 not upgraded. Need to get 148MB of archives. After unpacking 442MB will be used. Do you want to continue? [Y/n/?] y[Enter]を押してインストールを開始してください。

インストール中にいくつか設定で質問されます。

# Libpango1.0-common に関する質問 pango フォント管理を defoma(Debian Font Manager)に任せるかどうかです。

<No>

— Configuring libpango1.0-common – /etc/pango/pangox.aliases can now be managed by defoma. You can choose here whether to use defoma or not for managing pango fonts. This will be the case when you have defomized font packages already installed. If you say 'Yes' here, /etc/pango/pangox.aliases will be a symbolic link to /war/lib/defona/pango.d/pangox.aliases, which defona actually manages. The file will be rc-generated by defona when you install/wggrade/remove defonized font packages. If you don't want to use defoma and you prefer to edit pangox.aliases manually, choose 'No' here. You can run dpkg-reconfigure later, to have defomized /etc/pango/pangox.aliases or manage the file by yourself.

Do you want to entrust font management to defoma?

2

<Yes>選択

#### cdrecord に関する質問



<No>選択(日レセとは関係ないので、必要ならYesにしてください)

xttか freetype の選択

Kree86 4.x has two backends to handle TrueType fonts, FreeType and X-TI. FreeType is a standard and simple backend, while X-TI is alternative and has a mechanism of decorating TrueType fonts that can create bold and oblique faces from a single font.
If unsure, choose FreeType.
Backend to use for TrueType handling on X:
freetype
<0k>

<xtt>を選択

x window system のビデオカードの設定は使用するビデオカードによっては細かな設定をしたり、別途ドライバのイン ストールが必要になる場合があります。

Sargeでは自動でのハードウェア選択がよく動くようになっているので、なるべく自動で設定をしてみます。

#### 自動でビデオカードの選択

ebia	n Configuration
Au re au an qu	Configuring xserver-xfree86 ccept this option if you would like to attempt to autodetect the econnended X server and driver module for your video card. If utodetection fails, you will be asked to specify the desired X server nd/or driver module. If autodetection succeeds, further debconf uestions about your video hardware will be pre-answered.
I: de ti	f you would rather select the X server and driver module yourself, ecline this option. You will not be asked to select the X server if here is only one available.
Ĥ	ttempt to autodetect video hardware?
	(Yes) (No)

<Yes>を選択

フレームバッファ使う?



<Yes>を選択

#### XKB の選択



xfree86 そのままを使うので[Enter]

#### keyboard variant の入力:空欄のまま[Enter]



キーボードオプションの説明がでます。CTRLキーと CAPSキーを入れ替えるなどの設定をおこないたいときには

この後入力します。



<Ok>を選択

#### お好みで入れてください。ここでは空欄のまま[Enter]



マウスの設定。ここではとりあえず/dev/input/mice を試してみてください。



LCD かどうかの選択



使用するモニターが液晶モニターだったら<Yes>違う場合は<No>を選択してください。

ここでどう答えるかによってこの先の質問が変わります。

LCD を<No>と答えた場合

attempt monitor autodetection と出るので<Yes>を選択して自動で設定してください。 解像度一覧がでるので、1024x768 チェックを追加してください。 色深度を聞かれますので、24bit 選択します。

LCD を<Yes>と答えた場合

モニターの周波数をきめ細かく設定するか聞かれます。周波数を正確に把握しているなら Advanced を選択してもいいかもしれません。ここでは Medium を選択します。



1024x768@60Hzを選択します。



以上で x window system のセットアップが終了しました。

続いて x を起動しますが、ハードウェアによってはうまく動作しないかもしれません。その場合は使用しているハード ウェアをよく調べて、手動でのセットアップをしなおします。

セットアップをし直すには次のように打ちます。

orcatest:/home/orcauser# dpkg-reconfigure xserver-xfree86[Enter]

### 再度自動認識をさせる場合

dpkg-reconfigure xserver-xfree86 を実行した場合は、手動でのビデオカード選択になり、自動認識はしなくなり ます。

インストール後、再度自動認識をしたい場合は以下の手順でおこないます。

自動認識に必要なパッケージをインストールします

orcatest:/home/orcauser# aptitude install xdebconfigurator hwinfo medtect read-edid

xdebconfigurator を実行します

orcatest:/home/orcauser# xdebconfigurator

これでXに関する debconf の値を自動認識をおこなってセットします。

#### その後 dexconf を実行します。

orcatest:/home/orcauser# dexconf

これで /etc/X11/XF86Config-4 が書きかえられます。

そのまま gdm を起動すると gdm が英語モードで立ち上がってしまいます。gdm 上から言語を選択すれば、日本語の使用は問題なく使用できますが、gdm を日本語モードにするには /etc/default/gdm に LANGをセットします。

orcatest:/home/orcauser# echo "LANG=ja\_JP.EUC-JP" >> /etc/default/gdm[Enter]

#### 以下のコマンドで gdm を起動します。

orcatest:/home/orcauser# /etc/init.d/gdm start[Enter]

正常に起動すれば gdmの画面になります。次からは電源を入れると最後に gdm ログイン画面が出るようになります。



ユーザ、パスワードを入力してログインします。

(デフォルトではこの画面からは root ではログインできませんので作成したユーザを使用してください。)

ドキュメント通りにインストールした場合はスクリーンセーバーが未インストールのため、以下のようにエラーが出ま す。スクリーンセーバーを追加でインストールしない場合は、次回からこのメッセージを表示しないにチェックしてOK を押します。



これで X の環境が整いました。

### xmodmap について

Sarge 版の GNOME では、GNOME 上でキーボード切り替えが出来るようになっていますが、その影響で.gnomerc 等で設定しても xmodmap によるキーボードの設定変更が効かないように変更されてしまいました。

GNOMEによるキー設定では、まだ十分に設定できない場合があるため、xmodmapを使用したい場合は以下のようにします。

まず ~/.xmodmap というファイル名から好きな名前に変更します。ユーザ共通にするため /etc/x11 にコピーしても よいでしょう。

\$ sudo cp ~/.xmodmap /etc/X11/xmodmap

アプリケーション→デスクトップの設定→拡張設定→セッションを選択します。



自動起動するプログラムを選択し追加をクリックします。

入力欄に

xmodmap /etc/x11/xmodmap

(先ほどコピーしたファイル名)

を入力してOKをクリックします。

📆 セッション	×
オプション 現在のセッション 自動起動するプログラム	
自動的に起動するプログラムの追加:	
順番 コマンド	♣ 追加( <u>A</u> )
50 xmodmap /etc/X11/xmodmap	※編集(E)
	■ 削除(D)
<b>饺</b> ヘルプ( <u>H</u> )	★ 閉じる( <u>C</u> )

ログインし直すと xmodmap の設定が反映されます。

### sudo のインストール・設定

続いて日レセのインストールに入りますが、sudoを先に入れておくことをお勧めします。

画面上のディスプレイアイコンをクリックするかメニューから gnome-terminal を選択して開きます。

gnome-terminal 上で orcatest:/home/orcauser\$ su[Enter]

Password: \*\*\*\*\*(root のパスワード、実際には表示されません)

として root になり

orcatest:/home/orcauser# aptitude install sudo [Enter]

と入力します。「sudo」に打ち間違いがなく「導入、削除、更新をするパッケージがありません。」と出ていたら、すでに sudo はインストール済みです。

sudo がインストールされたら sudo の設定をします。

以下のように入力します。

orcatest:/home/orcauser# visudo [Enter]

#### #/etc/sudoers

#

# This file MUST be edited with the 'visuo' command as root.

#

# See the man page for details on how to write a sudoers file.

#### #

# Host alias specification

# User alias specification

# Cmnd alias specification

# User privilege specification

root ALL=(ALL) ALL

というエディット画面になったら、一番下までカーソルをもっていき

root ALL=(ALL) ALL orcauser ALL=(ALL) ALL orcauser の行を追加します。 保存してエディタを終了します。 Ctrl+o (CTRL キーを押しながら o キー)を押して「Enter」で保存してください。 Ctrl+x (CTRL キーを押しながら x キー)を押して終了します。 これで sudo が使用できるようになりました。 orcatest:/home/orcauser# exit[Enter] と入力して一般ユーザに戻ってください。

root でコマンド実行が必要なときは \$ sudo コマンド Password: 自分(ここでは orcauser)のパスワード とすれば root 権限で実行できるようになります。

## 日レセのインストール

### apt の設定

sudo を使用して apt-line の再設定をおこないます。 orcatest:/home/orcauser\$ sudo apt-setup[Enter] 「手動で設定」を選択し以下の apt-line を追加します。

deb ftp://ftp.orca.med.or.jp/pub/debian sarge jma ソースが必要な場合は以下の行も追加します。 deb-src ftp://ftp.orca.med.or.jp/pub/debian sarge jma

またこのときにアップグレードはインターネット経由でおこない cd-rom を使用しない場合は cd-rom の apt-line は削除して、http か ftp の apt-lne を追加します。 また自動で設定された apt-line に non-free と contrib を追加しておきます。

deb http://ftp2.jp.debian.org/debian sarge main contrib non-free deb-src http://ftp2.jp.debian.org/debian sarge main contrib non-free

また stable となっている部分は全て sarge に直しておきます。

#### 最終的には以下のようになります。

deb http://security.debian.org/ sarge/updates main contrib non-free deb http://ftp2.jp.debian.org/debian sarge main contrib non-free deb-src http://ftp2.jp.debian.org/debian sarge main contrib non-free deb ftp://ftp.orca.med.or.jp/pub/debian sarge jma deb-src ftp://ftp.orca.med.or.jp/pub/debian sarge jma CTRL+o, [Enter]で書き込みし CTRL+x で終了してください。

### 日レセのインストール

sarge\_install-0.1 のインストール方法ではロケールの設定に問題があったため、変更になっています。sarge\_instal-0.1 の方法でインストールした場合は <u>PostgreSQL の locale と Encoding</u> を参照してください。

jma-receipt(-hosp) をインストールすると一緒に PostgreSQL もインストールされますが、PostgreSQL をインストー ルするときに環境変数を設定しておきたいため、sudo ではなく root で作業をします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo su[Enter]

#### 環境変数 PGLOCALE を設定します

orcatest:/home/orcauser# export PGLOCALE=C[Enter]

必須ではありませんが、rootになった場合環境変数LANGが設定されていなくて、後のメッセージが英語で表示される場合があります。日本語で表示したい場合はLANGも設定しておきます。

orcatest:/home/orcauser# export LANG=ja\_JP.eucJP[Enter]

ここでは canna + kinput2-canna を選択していますが、ご自分が使用する日本語入力システムがあれば、そちらをインストールしてください。

#### 一行で以下のように打ちます。

(入院版が必要な場合は jma-receipt を jma-receipt-hosp にしてください)

orcatest:/home/orcauser# aptitude install jma-receipt kinput2-canna canna cupsys-bsd panda-client [Enter]

Password: \*\*\*\*\*\*(聞かれた場合は自分のパスワードを入力)

#### 必要なパッケージー覧が表示されます。



y[Enter]でインストールが開始されます。

PostgreSQLもインストールされ、初期セットアップの設定画面になります。 ダ アフリターション アクション ■■



<了解>で先に進みます。

PostgreSQL データベースをパージ(完全な削除)したときに中のデータも消すかどうか

🐮 アプリケーション アクション 📕 🔤	6月26日 (月) 14:12 📢 🔳
orcauser@sagetest: /home/orcauser	<
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(I) タブ(I) ヘルプ(H)	
Debian の設定	
orcauser のホーム	
Postgresql を設定しています PostgresQL のパージ要求は、/var/lib/postgres/data 以下のデータベースファ イルの削除を意味します。これらは(別の場所をデータに指定していない限りは ) 実際のデータベースデータを含んでいます。 パージ要求されたとき、これらのファイルは削除され、そこにあるすべてのデー タも破棄されます。 パッケージファイルがパージされた際に同時にデータもパージしますか? <はい>	
🕅 💷 orcauser@sagetest: /home/orcauser	

<いいえ>を選択
### データベースバックエンドのデフォルトのロケール

🐮 アプリケーション アクション 🗮 🔤	6月26日 (月) 14:13 🗳 🔳
<pre>orcauser@sagetest; /home/orcauser</pre>	
ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻) 端末(I) タブ(I) ヘルプ(日)	
Debian の設定 「 「 「 「 「 「 「 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」	
orcauser@sagetest:/home/orcauser	

ja\_JP.EUC-JP を選択

### 日付の表記の仕方



日レセでは関係しませんのでお好みでお選びください。 ここでは<欧州>を選択

### デフォルトの紙の選択になります。A4を選択してください。

👸 アプリケーション アクション 📃 🧱	6月26日 (月) 14:13 🗳 🔳
orcauser@sagetest:/home/orcauser □ X	
↓ システムのデフォルトとする風サイズはどれですか1     ▲       システムのデフォルトとして利用する紙サイズを選択してください。あなたの     システムのさまざまジョクラムが、どのように印刷出力するかを決める際に、       ・ この設定の選択度を使います。     システムのデフォルトとする紙サイズはどれですか?       レター     ★       / - ト     リーガル       ソフト     レター       / - ト     リーガル       ・ コングゼクティブ     ハーフングゼクティブ       パロ     -> エグゼクティブ       パロ     -> エグゼクティブ       パロ     -> エグゼクティブ       パロ     -> エグゼクティブ       パロ     -> マル ゴン       <	
orcauser@sagetest:/home/orcauser	

### cupsys-bsd の設定: <いいえ>を選択します。



cannaの設定:デフォルトで構いません。

かんなサーバの起動:くはい>

	orcauser@orcatest: /home/orcauser _   X	
<b>f</b>	ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻) 端末( <u>T</u> ) タブ( <u>T</u> ) ヘルプ( <u>H</u> )	
orcauser のホーム	Debian の設定	
ゴミ箱	canna を設定しています	
	このパッケージはかんなサーバとサーバに関係したユーティリティを 含んでい ます。もし、サーバ関連のユーティリティにのみ興味があるのであれば、かんな サーバが起動するのを無効にすることができます。 かんなサーバを記動しますか?	
	がんな y 一 Y を 定動 C よ y か Y くいいえ > くいいえ >	

遠隔のホストからかんなサーバに接続しますか?:<いいえ>

コンピュータ	
	orcauser@orcatest: /home/orcauser _ C X
<b>n</b>	ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(I) タブ(I) ヘルプ(H)
orcauser のホーム	Debian の設定
ゴミ箱	canna を設定しています このパージョンのかんなサーバは inet オプションがない場合、UNIX ドメイン ソケット経由でしか接続できません(セキュリティの強化の ためです)、これは inet オプションなしで起動したかんなサーバ には同じホストで動いているクラ イアントからしか接続できない ことを意味します。また 'egg' や'yc-el'のよ うに UNIX ドメインソケットを サポートしていないいくつかのクライアントで は、そのクライアント が同じホストで動作していたとしても、inet オプション を利用する 必要があります。 もし、このかんなサーバにリモートホストからも接続したい場合、もしくは、 UNIX ドメインソケットを利用できないクライアント を使う場合、inet オプシ ョンをつけてサーバを起動しなければ なりません。 遠隔のホストからかんなサーバに接続しますか?

続いてjma-receiptの設定について聞かれます。 使用する環境に合わせて設定してください。

jma-receipt 用に glauth をスタートしますか? <はい>



glauth が接続待ちするポートを入力してください: 8001

Debian の設定
jma-receipt-hosp を設定しています 特別な理由がない限りデフォルト(8001)のままにしておいてかまいません。 glauth が接続持ちするポートを入力してください
8001

jma-receipt 用に monitor をスタートしますか? <はい>



jma-receipt 用に dbredirector をスタートしますか? <いいえ>

(2 台運用の従サーバの準備ができていればくはい>にします。ここでは一旦くいいえ>を選択して、従サーバの準備ができたら dpkg-reconfiure jma-receipt を実行して、設定を変更しなおすことにします)。

Debian の設定		
	jma-receipt-hosp を設定しています jma-receipt 用に dbredirector をスタートしますか? <はい> <mark>&lt;いいえき</mark>	

jma-reciept 用に glserver をスタートしますか? <はい>

Debian の設定	
	jma-receipt-hosp を設定しています jma-receipt 用に glserver をスタートしますか? <mark>そばい&gt;</mark> <いいえ>

glserver が接続待ちするポートを入力してください:8000



glserver が接続する glauth を指定してください: localhost:8001

ebian の設定
Jma-receipt-hosp を設定しています Jma-receipt-hosp を設定しています schostname>: <port>という書式で、接続する glauth のホストおよびポート を 指定することが可能です。ただし、ほとんどの場合はデフォルトの設定 (localhost:8001)のままで十分です。 glserver が接続する glauth を指定してください</port>
Locathost:8001 <了第>

wfc が接続する glserver を指定してください: localhost:9000



jma-receipt 用に claim server をスタートしますか? <いいえ>

(claim とは主に電子カルテとの接続に使用する規格で claim による電子カルテを接続する場合は<はい>とします。)



データベース構造変更処理を自動で実行しますか? <はい>(すでにセットアップされたデータベースの dump があるなら<いいえ>を選択して dump を入れます)



日レセサーバ(デーモン)を起動するかどうかについての説明<了解>で進みます。



今すぐデーモンをスタートしますか? <はい>



設定項目の質問に答え終わるとjma-receiptのデータベースのデータを作成を開始します。

これには長い時間がかかります。

正常にデータ作成が終了すれば自動でサーバーまで起動されて、サーバが稼動します。

# PostgreSQL の dump ファイルを使用する

pg\_dump により PostgreSQL のバックアップを使用する場合は「データベース構造変更処理」をおこなわずに、 dump ファイルをインポートします。 インポート手順は pg\_dump のやり方によっては若干異なりますが、例えば orca ユーザにより \$ pg\_dump -o orca >dumpfile のようにダンプ下場合は、通常のリストア手順と同じように orca ユーザになり \$ psql orca < dumpfile

と実行します。

詳しくは PostgreSQL のマニュアルを参照するようにしてください。

woody 版の PostgreSQL 上で pg\_dump により出力した dump ファイルは sarge 版の PostgreSQL にインポートすることが可能です。

もし woody 版の日レセの方が古い場合は、通常の日レセアップグレードと同じように「データベース構造変更処理」 が必要になります。起動する前に dpkg-reconfigure を実行して、構造変更処理をおこなってください。

Sarge版で出力した dump ファイルは woody版 にそのままインポートすることはできません。日レセのバージョンが同じの場合はデータベース構造は基本的には同じですが、PostgreSQL のダウングレードになるため、古いPostgreSQL が解釈できない構文が含まれるためです。

# PostgreSQL 𝒫 locale と encoding

PostgreSQL では言語設定として locale と encoding が関係します。日本語を使用する場合、encoding は EUC\_JP に設定しますが locale は C に設定されていないとパフォーマンスが悪くなるといった問題を引き起こすことがあります。

ドキュメントに沿って PGLOCALE を設定してインストールを実行していれば問題ありませんが、そのまま実行してし まった場合は initdb からやり直す必要があります。

以下の手順でチェックし必要があれば、initdb をしなおします。

0. ロケールのチェック

\$ sudo -u postgres /usr/lib/postgresql/bin/pg\_controldata /var/lib/postgres/data|grep "^LC"

両方とも C と表示されれば問題ありません。jma-receipt のインストール手順に進んでください。

LC_COLLATE:	C
LC_CTYPE:	C

ja\_JP.eucJP 又は他の日本語ロケールが表示されていた場合にはinitdb をやり直す必要があります。

LC_COLLATE:	ja_JP. eucJP
LC_CTYPE:	ja_JP. eucJP

## initdb のやり直し手順

- 1. jma-receipt の停止
- \$ sudo /etc/init.d/jma-receipt stop

2. pg\_dumpall の実行

pg\_dumpall でバックアップを取ります。

(suして postgres ユーザになります)

\$ sudo su - postgres

\$ /usr/lib/postgresql/bin/pg\_dumpall > dumapall

3. /var/lib/postgres/data の削除

まず PostgreSQL を停止します。

(exit して元のユーザに戻ります)

\$ exit

\$ sudo /etc/init.d/postgresql stop

/var/lib/postgres/data を削除します。

\$ sudo rm -rf /var/lib/postgres/data

4. initdb の実行

(suして postgres ユーザになります)

\$ sudo su - postgres

(initdbを実行します。オプションに注意してください)

\$ /usr/lib/postgresql/bin/initdb --no-locale -EEUC-JP -D /var/lib/postgres/data

(--no-locale の部分は(-)ハイフン(-)ハイフン no-locale です)

5. Debian パッケージ形式に設定ファイルをあわせる

(0.2版から追加修正)

このままだと /etc/postgresql/\*conf ファイルを変更しても参照されいようになっています。

Debian パッケージの設定ファイルの置き方にあわせるために

/var/lib/postgres/data/\*conf は /etc/postgresql/\*conf のシンボリックリンクになるようにします。

(postgres ユーザで /var/lib/postgres/data に移動します。)

\$ cd /var/lib/postgres/data

(以下の行を1行で実行します。)

\$ for f in pg\_hba.conf pg\_ident.conf postresql.conf ; do rm -f \$f; In -s /etc/postgresql/\$f; done (exit して元のユーザに戻ります)

```
$ exit
```

Is -I を実行して確認します。以下のように表示されればOKです。

```
$ sudo ls -l
-rw------ 1 postgres postgres 4 2006-06-29 00:01 PG_VERSION
drwx----- 5 postgres postgres 4096 2006-06-29 00:02 base
drwx----- 2 postgres postgres 4096 2006-08-14 15:32 global
drwx----- 2 postgres postgres 4096 2006-06-29 00:01 pg_clog
lrwxrwxrwx 1 postgres postgres 27 2006-06-29 00:01 pg_hba.conf -> /etc/postgresql/pg_hba.conf
lrwxrwxrwx 1 postgres postgres 29 2006-06-29 00:01 pg_ident.conf -> /etc/postgresql/pg_ident.conf
drwx------ 2 postgres postgres 4096 2006-08-14 15:37 pg_xlog
lrwxrwxrwx 1 postgres postgres 31 2006-06-29 00:01 postgresql.conf -> /etc/postgresql/postgresql.conf
-rw------ 1 postgres postgres 65 2006-08-14 15:24 postmaster.opts
-rw----- 1 postgres postgres 48 2006-08-14 15:24 postmaster.pid
Cれで /etc/postgresql/* 以下を修正すれば、反映されることになります。
```

#### 6. PostgreSQLの起動

\$ sudo /etc/init.d/postgresql start

```
7. データを戻します。
(su して postgres ユーザになります)
$ sudo su - postgres
$ /usr/lib/postgresql/bin/psql -f dumapall template1
(最後に vacuum を掛けます)
$ /usr/lib/postgresql/bin/vacuumdb -a -f
(exit して元のユーザに戻ります)
$ exit
```

# 日本語入力の設定

日本語入力のために kinput2-canna をインストールしましたが、日本語入力するためには設定が必要です。面倒な設定を自分で書きたくない場合は language-env というパッケージをインストールして設定する方法もあります。

ここでは必要最小限の設定をおこないます。

orcatest:/home/orcauser\$ editor ~/.gnomerc[Enter]

エディタを立ち上げます。.gnomerc というファイルはまだないはずなので、中身はありません。

以下の内容を書きます。

if type kinput2 &>/dev/null; then

kinput2 -canna &

sleep 3

fi

XMODIFIERS=@im=kinput2; export XMODIFIERS

保存後実際に有効になっているかどうか確かめるためにログインしなおします。

画面上部のパネルから「アクション」→「ログアウト」を選択し「ログアウト」をチェックして「OK」を押します。

もう一度 gnome-terminal を起動して「SHIFT+SPACE」を押して下に「あ」と出れば有効になっています。

これでこのユーザーは日本語入力が可能です。

クライアントを立ち上げてサーバーに接続もできます。

# かんな辞書の追加

デフォルトのかんな辞書は語彙がそれほど多く登録されていませんので、お好みで辞書を追加します。

ORCA プロジェクトでは canna-cannadic(かんな拡張辞書) と canna-canadamed(医学用語)パッケージを用意していますので、これを使用します。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install canna-cannadic canna-canadamed[Enter]

インストールしたら有効にするために設定をする必要があります。

canna-cannadicの辞書は canna 付属の iroha の上位互換となっていて、 canna-cannadic の gcanna を使用する場合は iroha は必要ありません。

そのため、/etc/canna/default.cannaの辞書設定を変えておいたほうがよいでしょう。

orcatest:/home	/orcauser\$	sudo editor	/etc/canna/default.canna	[enter]
----------------	-------------	-------------	--------------------------	---------

~	
(use-dictionary	
"gcanna"	; ←追加
"gcannaf"	; ←追加
; "iroha"	; ";"を先頭に追加してコメントアウト
"hojomwd"	
"hojoswd"	
∶bushu "bushu"	
∶user "user"	
∶∶katakana "katakana"	
)	
~	

ユーザ毎の設定は ~/.canna に書きますが、かんなの設定ファイルは ~/.canna がある場合は /etc/canna/default.canna は読み込まれませんので、/etc/canna/default.canna も有効にする場合は明示的にロードします。

~/.canna の先頭 に

(load "/etc/canna/default.canna")

という一行を追加します。

後は canadamed 辞書のエントリをお好みにより有効にします。システム全体で有効にしたい場合は、/etc/canna/default.canna を書き換えユーザ毎に設定したい場合は ~/.canna を書き換えます。

ここでは ~/.canna を書き換えます。/etc/canna/default.canna をロードするので、追加の辞書のみを書きます。

```
orcatest:/home/orcauser$ editor ~/.canna [enter]

(load "/etc/canna/default. canna"

(use-dictionary

"med"

: "medx" 一英数字への変換も含まれるので、必要な場合に有効にしてください

"medinst"

"chimei"

"katakana"

"software"

"henkaku"

"oldchar"

"sfx"
```

編集後 cannacheck というコマンドでチェックします。

orcatest:/home/orcauser\$ cannacheck -v [enter]

カスタマイズファイルとして	"/home/orcauser/.canna" を用います。
[load "/etc/canna/default.ca	nna″]
ローマ字かな変換テーブルは ″	/usr//share/canna/default.cbp″を用います。
システム辞書 "sfx"	を指定しています。
システム辞書 "oldchar"	を指定しています。
システム辞書 "henkaku"	を指定しています。
システム辞書 "software"	を指定しています。
システム辞書 "katakana"	を指定しています。
システム辞書 "chimei"	を指定しています。
システム辞書 "keishiki"	を指定しています。
システム辞書 "medinst"	を指定しています。
システム辞書 "med"	を指定しています。
部首辞書 "bushu"	を指定しています。
システム辞書 "hojoswd"	を指定しています。
システム辞書 "hojomwd"	を指定しています。
システム辞書 "fuzokugo"	を指定しています。
システム辞書 "gcannaf"	を指定しています。
システム辞書 ″gcanna″	を指定しています。
サーバ "unix" に接続します。	

RKCの設定ファイルがありません

ここでマウントできません等表示された場合はスペルミス等がないかチェックします。

「RKCの設定ファイルがありません」というメッセージは問題ありません。

問題がなくなったら実際に有効にするためには、一旦ログアウトし、再度ログインをしなおします。

# 医療機関 ID の設定

#### 医療機関IDを設定します。

ー行で以下のコマンドを入力します(「JPN 999999999999」は、各医療機関の医療機関IDを設定してください) orcatest:/home/orcauser\$ sudo -u orca sh /usr/lib/jma-receipt/bin/jma-receipt-hospid-set.sh JPN9999999999999999[enter]

#### 以下のメッセージが表示されます。

医療機関IDを振り直します

#### これでよければそのまま ENTER キーをおしてください JPN9999999999999

表示された医療機関IDで良ければ「Enter」キーを押してください。

すると、以下の確認メッセージが表示されます。

----\*(15 桁)

HOSPID= JPN99999999999 [y/N]

上記のメッセージから、桁数の確認をおこない、指定された医療期間コードでよろしければ「y」と入力して「Enter」キーを押してください

すると以下のようにメッセージが表示されます(ここでは、DBの更新に関するメッセージを省略しています)

(処理メッセージが流れる)

システム管理テーブルの医療機関IDをセットします

vacuum処理を行います。

処理はすべて終了しました。

# パスワード設定

次に ormaster ユーザのパスワードを設定します。 以下を一行で入力します。「パスワード」の所に好きなパスワードを入れてください(英数字、記号) orcatest:/home/orcauser\$ sudo -u orca /usr/lib/panda/sbin/gluseradd ormaster -p パスワード -file /etc/jmareceipt/passwd [Enter]

パスワードの再読み込みのため jma-receipt を reload(restart でもかまいません)します。 orcatest:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/jma-receipt reload[Enter] orcatest:/home/orcauser\$ glclient -dialog &[Enter]

でクライアントを起動し

ユーザ: ormaster

パスワード: 先ほど設定したパスワード

で接続します。

起動を確認したらとりあえず「F1キー」を押して終了します。

これで日レセのインストールは終了です。

jma-receipt-fdd パッケージとjma-receipt-opas パッケージは必要ならインストールします。

### それぞれ以下のようにしてインストールします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install jma-receipt-fdd[Enter] orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install jma-receipt-opas[Enter]

詳細は各ページを参照してください。

## Window Manager の設定

# Metacity の設定

Sarge では Gnome2 になり、デフォルトのウィンドウマネージャが Sawfish から Metacity に変わりました。Gnome パネルを表示しながら、glclient を使用するとパネルを隠す設定にしても邪魔になることがあります。

Metacity でパネルを隠す設定例です。

Metacity には個々のアプリケーションに対する Window 管理の設定機能が付属していません。そのため、devilspie というプログラムを利用して設定します。

まず devilspie をインストールします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install devilspie[Enter]

~/.devilspie.xmlという作成し中身を以下のようにします。

<?xml version="1.0"?> <!DOCTYPE devilspie SYSTEM "devilspie.dtd">

```
<!-- The root element is devilspie -->
<devilspie>
<flurb name="Glclient">
<matchers>
<matcher name="DevilsPieMatcherWindowName">
<property name="DevilsPieMatcherWindowName">
<property name="DevilsPieMatcherWindowName">
<property name="DevilsPieMatcherWindowName">
<property name="Glclient"/>
</matcher>
</matchers>
<actions>
<actions>
<action name="DevilsPieActionLayer">
<property name="DevilsPieActionLayer">
<property name="DevilsPieActionLayer">
</actions>
</actions>
</actions>
</flurb>
</devilspie>
```

### ORCA センタサーバからダウンロードすることも可能です。

orcatest:/home/orcauser\$ wget <u>http://www.orca.med.or.jp/pub/receipt/sarge\_install/dot.devilspie.xml</u>[Enter] orcatest:/home/orcauser\$ cp dot.devilspie.xml ~/.devilspie.xml[Enter]

~/.gnomercの最初に以下の行を追加します。

devilspie &	<====追加	
if type kinput2 &>/dev/null; then		
kinput2 -canna &		
sleep 3		
fi		
XMODIFIERS=@im=kinput2; export XMODIFIERS		

これでログインしなおすと glclient はパネルの前に表示されるようになります。

### Sawfish の設定

woody で使用していた sawfish を使用することも可能です。

sawfish に変更する手順です。

sawfish-gnome をインストールします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install sawfish-gnome [Enter]

以下の新しいパッケージが自動的にインストールされます

librep9 rep rep-gtk sawfish

以下の新しいパッケージがインストールされます:

librep9 rep rep-gtk sawfish sawfish-gnome

更新:0個、新規インストール:5個、削除:0個、保留:0個。

3250kB のアーカイブを取得する必要があります展開後に追加で 11.6MB のディスク容量が消費されます。

続けますか? [Y/n/?] y

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude remove metacity[Enter]

以下のパッケージが削除されます: metacity 更新:0個、新規インストール:0個、削除:1個、保留:0個。

これで metacity から sawfish にウィンドウマネージャが入れ替わりました。ログインしなおして sawfish になっているこ とを確認してください。

glclientを使用するにあたって Woody の時と同じように設定を変更します。



メニューの[アプリケーション] - [デスクトップの設定] - [ウィンドウ]を選択

Sawfish 設定ツールが立ちあがります。

[Sawfish 設定ツール]の[ウィンドウプロパティ]を選択し、その項目の[追加...]を選択します。



[一致ウィンドウ] の項目内のコンボボックスにある[クラス] を選択します。

その右のインプットボックスに [Glclient/glclient] と入力します。

マッチウィンドウプロパティ	da .	
「一致ウィンドウ	Globient/globient	TV LI λλ 24
		HX 9 2.07
		取り込み
<u> </u>		取り込み
動作		
配置 フォーカス 外観 状態	その他	
Avoid		
プログラム指定の位置を無初	1 [はい	
配置モード	randomly	
位置		
大きさ		
ワークスペース		
ビューボート		
深さ		
配置重み	↓ □ 0 →	
最大化された	■ すべて ▽	
L	<b>a</b>	
		OK( <u>0</u> )

[動作]の項目の[配置]の中の[位置]をチェックします。

[動作]の項目の[その他]の中の[ダイアログを前面に]にチェックを付けます。

マッチウィンドウプロパティ								
「一致ウィンドウ								
クラス Glclient/glclient	取り込み							
	取り込み							
▼	取り込み							
配置 フォーカス 外観 状態 その他								
固有名 🔲 はい								
人工重力 □ はい								
シェード点滅 🗆 はい								
ダイアログを前面に 🗹 すべて 🗘								
スタック要求を無視 🔲 はい								
Skip tasklist 🗖 💷								
× キャンセル( <u>C</u> )	⊘OK( <u>0</u> )							

[OK] を選択して、[Sawfish 設定ツール]の[閉じる] を選択し閉じます。

# SSH のインストール

別のマシンからログインしたい場合は OpenSSH をインストールします。 この作業中に、リモートから悪意を持った人にパスワードでログインされる可能性があります。 特にインターネット経由でリモートからログインされないようネットワーク環境に注意してください。

ssh パッケージをインストールします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install ssh [Enter]

SSH プロトコル2のみを許可します

くはい>を選択します。

(SSHプロトコル1しか使えないクライアントがある場合にはくいいえ>を選択します。)



ssh-keysign を SUID root でインストールしますか?

<はい>を選択



sshサーバを実行しますか?

<はい>を選択



これで、このマシンからリモートでログインできるようになりました。

このマシンのIPアドレスを調べて他のマシンからログインして見ます。

orcatest:/home/orcauser\$ /sbin/ifconfig [Enter]

eth0 Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:4E:CE:E0

inet addr:192.168.1.147 Bcast:192.168.1.255 Mask:255.255.255.0

~略~

inet addr: の後の 192.168.1.147 がIPアドレスになります。

# ここからはリモートマシンでの作業です。

Linux のリモートマシンの例です。Windows にも ssh クライアントがありますが、ソフトによって異なりますので、別途ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

リモートのマシンから ssh ユーザ名@IPアドレスでログインしてみます。

\$ ssh orcauser@192.168.1.147

RSA key fingerprint is 03:9c:73:06:fb:92:d9:24:1e:8a:0f:6b:59:3e:71:e2. ←この部分はマシンによって 変わります Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? <u>yes</u> ← yes と入力 Warning: Permanently added' 192.168.1.147' (RSA) to the list of known hosts. Password: ←パスワードを入力

でログインできます。

\$ exit と打ってログアウトします。 パスワード認証ではパスワードがばれてしまうと破られてしまうので、公開鍵認証に変更します。

まずリモートのマシンで秘密鍵と公開鍵のペアを作成します。もし既に公開鍵が作られていた場合は、この作業はせずに作成済みの鍵をそのまま使用してください。

ssh-keygen コマンドでキーペアを作成します。

\$ ssh-keygen -t rsa [Enter]

3回質問されますが、Enterのみで進みます。

Ener file in which to save the key (/home/ユーザ名/.ssh/id\_rsa): [Enter]

Enter passphrase (empty for no passphrase): [Enter]

Enter same passphrase again:[Enter]

ここで聞かれるパスフレーズはこの鍵を使用するためのパスフレーズをつけるかどうかです。

心配ならばパスフレーズをつけてもよいでしょう。その場合は、2回同じパスフレーズを入力します。

実行すると~/.ssh/id\_rsa(秘密鍵)と~/.ssh/id\_rsa.pub(公開鍵)のペアが作成されています。

この公開鍵を登録するとこのリモートのマシンから公開鍵認証ができるようになります。

登録するには以下のコマンドが使用できます。

\$ ssh-copy-id -i .ssh/id\_rsa.pub orcauser@192.168.1.147[Enter]

**192.168.1.147**の /home/orcauser/.ssh/authorized\_keys に id\_rsa.pub の内容がコピーされています。

ssh-copy-id を使用しなくても USB キーやフロッピー等を使用して、ログインするマシンに id\_rsa.pub を /home/orcauser/.ssh/authorized\_keys に追加すれば登録できます。 authorized\_keys ファイルは公開鍵を列挙する 形になっているので、上書きはせずに

\$ cat id\_rsa.pub >> ~/.ssh/authorized\_keys

のようにしてファイルに追加します。

もう一度ログインしてみます。

\$ ssh orcauser@192.168.1.147[Enter]

パスフレーズをつけていなかった場合は、パスワードなしでログインできます。パスフレーズをつけていた場合は、リモートのパスワードではなく、先ほどつけたパスフレーズでログインできます。

公開鍵認証ができるようになったら、パスワード認証を禁止します。

元のマシンに戻って(又はリモートマシンからログインして)、/etc/ssh/sshd\_config を書き換えます。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo editor /etc/ssh/sshd\_config [Enter]

一番最後の行の

UsePAM yes

を

UsePMA no

に書き換えます。

その後 ssh を再起動します。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/ssh restart [Enter]

公開鍵が登録していないマシンからログインしようとしたときに

Permission denied (publicky, keyboard-interactive).

と表示されてログインできなければ、パスワード認証が禁止されています。

# ネットワークアドレスの設定

使用するネットワーク環境によりますが、実際に設置してサーバとして使用する場合にDHCPによる自動アドレスから固定アドレスに変更します。

ネットワークの設定は /etc/network/interfaces になりますので、このファイルを書き換えます。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo editor /etc/network/interfaces [Enter]

# This file describes the network interfaces available on your system

# and how to activate them. For more information, see intarcafes(5).

# The loopback network interface

auto lo

iface lo inet loopback

#### # the primary network interface

auto eth0

iface eth0 inet dhcp

最後の行の iface eth0 inet dhcp の部分を書き換えます。

アドレス等は使用するネットワークに従ってください。ここでは

プライベートアドレスで 192.168.1.2

ゲートウェイ 192.168.1.1

で設定します。

iface ethO inet static

address 192.168.1.2 netmask 255.255.255.0

gateway 192.168.1.1

またデフォルトで IPv6 が有効になっていますので、IPv6 ネットワークが使用できる場合は、inet6 のエントリも追加 します。

IPv6 を使用しない場合は、ネットワーク設定はこのままにしておき、/etc/modprobe. d/aliases を書き換えて IPv6 モジュールを読み込まないようにしておいた方がよいでしょう。

### alias net-pf-10 ipv6

↓ この行を書き換え

#### alias net-pf-10 off

固定アドレスにする場合にルータやDHCPサーバの設定が必要になる場合がありますので、ルータのマニュアル等を御確認ください。

# 2台運用の設定

2台運用にする場合に主サーバから従サーバのデータベース(PostgreSQL)に接続して、データを2重化します。 PostgreSQLのデフォルト設定ではリモートからの接続を受け付けていないので、設定を変更します。

従サーバには PostgreSQL が動作していれば、2重化は可能ですが、同じようにセットアップして、日レセサーバは 稼動を停止した状態にしておきます。

## PostgreSQL の認証方式の決定

まず従サーバの PostgreSQL への接続認証方式を決めます。PostgreSQL ではいくつかの認証方法をサポートして いますが、ここではパスワード認証で設定します。従サーバのセットアップではデータベース処理はしないでおきます。

# 従サーバでの作業

従サーバでの日レセのセットアップが完了していれば、既に orca ユーザが作成されていますので、作成されている orca ユーザにパスワードを設定します。

### 以下のようにして ALTER USER というSQLで パスワードを設定します。

orcatest2:/home/orcauser\$ sudo -u postgres psql template1 [Enter]

template1=# ALTER USER orca WITH PASSWORD 'パスワード';

### ALTER USER

template1=# \g

\q [enter]でログアウトします。

これでパスワードが設定されました。パスワードを設定してもデフォルトではローカルホストからの接続はパスワードなしでも接続できます。

まだ従サーバで日レセをセットアップしていない等の理由で従サーバのデータベースに orca ユーザが作成されていない場合は、以下のようにして orca ユーザを作成します。

orcatest2:/home/orcauser\$ sudo -u postgres createuser -d -A -P orca [Enter]

Enter password for new user: パスワードの入力

Enter it again: もう一度パスワードの入力

今回のように設定する場合は、リモートからは createdb できないので、ここで 空の orca データベースを作成します。既に従サーバに orca データベースがある場合はこの作業は必要ありません。

orcatest2:/home/orcauser\$ sudo -u orca createdb orca[Enter]

#### CREATE DATABASE

主サーバから接続できるように pg\_hba.conf を書き換えます。

orcatest2:/home/orcauser\$ sudo editor /etc/postgresql/pg\_hba.conf[Enter]

pg\_hba.conf ファイルの書式は最初にコメントで書いてある通り、

ホスト名 データベース名 ユーザ名 IP アドレス ネットマスク 認証方式 オプション

を各スペースで区切って記述します。

上の行が優先されるので、上の行以外のすべての接続を拒否している最終行の前に次の一行を追加します。

host orca orca 192.168.1.2 255.255.255.255 password

# reject all other connection attempts

host all all 0.0.0.0 0.0.0.0 reject

この設定は 192.168.1.2 のマシンから ORCA データベースに ORCA ユーザのみがパスワードで接続可能という設定にしています。

(192.168.1.2は主サーバのアドレスに読み替えてください)

PostgreSQL を再起動して設定を有効にします。

orcatest2:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/postgresql restart [Enter]

設定に間違いがあった場合には /var/log/postgresql/postgres.log にエラー内容が出ていないかチェックします。 orcatest2:/home/orcauser\$ sudo tail /var/log/postgresql/postgres.log [Enter]

#### 問題なければ主サーバから接続します。

# 主サーバでの作業

主サーバから従サーバへまず psql で接続を試します。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo su orca[Enter]

orcaorcatest:/home/orcauser\$ psql -h 192.168.1.3 -W orca[Enter]

Password: 従サーバで設定したパスワード[Enter]

ログインできればOKです。

Welcom to psql 7.4.7, the PostgreSQL interactive terminal.

Type: \copyright for distribution terms

\h for help with SQL commands

\? for help on internal slash commands

\g or terminate with semicolon to execute query

\q to quit

orca=>\q

\q [enter]でログアウトします。

### 主サーバのデータベースを従サーバのデータベースにコピー(同期)

接続できることが確認できたら、主サーバのデータを従サーバにコピーします。

主サーバ上から ORCA ユーザで

orca@orcatest:/home/orcauser\$ pg\_dump -0 orca |psql -h 192.168.1.3 -W orca[Enter]

で一気に流し込みます。

もし既に従サーバの orca データベースの中身がある場合は、エラーになるので、 pg\_dump に -c オプショ ンをつけて、先に削除コマンドが実行されるようにします。

orca@orcatest:/home/orcauser\$ pg\_dump -c -0 orca |psql -h 192.168.1.3 -W orca[Enter]

大量の出力が流れます。

このときに SQL 文に

COMMENT ON SCHEMA public IS 'Standard public schema';

という文が入っているために途中で、

ERROR: permission denied to set session authorizeation

ERROR: must be owner of schema public

というエラーが出力されます。この文は postgres ユーザ権限が必要なので、 orca ユーザで実行すると権限 がないためにエラーになります。

この文は、ここで実行できなくても既に PostgreSQL ではセットされているため、無視して構いません。

これ以外のエラーがでていないかチェックします。

コピーできたら /etc/jma-receipt/dbgroup.inc を書き換えます。

orca@orcatest:/home/orcauser\$ editor /etc/jma-receipt/dbgroup.inc [Enter]

log グループを以下のように書き換えます。

db\_group "log" {
priority 100;
type "PostgreSQL";
port "192.168.1.3"; # 従サーバのアドレス
name "orca";
user "orca";
password "従サーバで設定したパスワード";
file "/var/lib/jma-receipt/dbredirector/orca.log";
};

dbredirector が有効になるように dbkg-reconfigure jma-receipt を実行します。

orcauser に戻る

orca@orcatest:/home/orcauser\$ exit [Enter]

dpkg-reconfigure の実行

orcatest:/home/orcauser\$ sudo dpkg-reconfigure jma-receipt[Enter]

質問に答えて dbredirector を起動してください。

サーバが再起動されますので、接続して試します。

# 印刷関連パッケージのインストール

印刷に必要なパッケージをインストールします

以下のように入力して必要なパッケージをインストールします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install gs-esp gs-cjk-resource foomatic-filters-ppds [Enter]

Password: \*\*\*\*\*(聞かれたら自分のパスワードを入力)

CMap について聞かれます<標準>を選択。



### Samba Server について聞かれます。

デフォルトのまま進みます。



ワークグループ/ドメイン名はなんですか?空欄のまま[Enter]

パスワードを暗号化しますか?<はい>[Enter]

DHCP から WINS 設定を使うよう smb.conf を変更しますか? <いいえ>[Enter]

インストールが終わったらプリンタにあわせて印刷環境を設定します。

# 印刷環境の設定

## 印刷キューの作成

### プリンターの電源が ON になっていることを確認します。また、インターフェイスケーブルでコンピュータとプリンターが 正しく接続されていることも確認します。

設定にはいろいろな方法でできますが、ここではWebブラウザで設定する方法を説明します。

ブラウザはお好みのブラウザを使用してください。ここでは mozillaを使用しています。

これまでのインストールで mozilla が既にインストールされているかもしれません。まだ mozilla がインストールされてい ない場合は以下のように mozilla をインストールしてください。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo aptitude install mozilla[Enter]

### (違うマシンのブラウザから設定するにはサーバ側で許可をする設定が必要です。「<u>違うマシンのブラウザから設定</u> <u>するには</u>」を参照してください)

### (1) 以下のコマンドで Web ブラウザを起動させます。

orcatest:/home/orcauser\$ mozilla [Enter]

(2) アドレスを入力して CUPS Web 管理サイトにアクセスします。

ローカルマシンから接続する場合 http://localhost:631/

#	Common UNIX Printing System - Mozilla 📃 🗖 🕽	K
	<u>E</u> ile <u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>G</u> o <u>B</u> ookmarks <u>T</u> ools <u>W</u> indow <u>H</u> elp	
	🔇 🕥 💿 🚫 🔍 http://localhost:631 🔍 Search 🖉 💭	
-	🖆 Home 🖹 Bookmarks 🛇 The Mozilla 🛇 Latest Builds	
	ESP 管理 クラス ヘルプ ジョブ プリンタ ソフトウェア	
-	管理	
-	<u>プリンタクラスの管理</u>	SHI -
	<u>オンラインヘルプ</u>	
-	<u>ジョブ管理</u>	
	<u>プリンタ管理</u>	
	最新ソフトウェアのダウンロード	-

CUPS Web 管理サイトが表示されます。

[プリンタ]または[プリンタ管理]をクリックします。

(3) [プリンタ追加]をクリックします。



(4)ユーザー名とパスワードの入力を求められた場合は、管理者用のユーザー名(root)とパスワードを入力します。

	Filmpt									
?	Enter username and password for "CUPS" at http://localhost:63 User Name:									
	root									
	Password:									
	****									
	Use Password Manager to remember these values.									

Promot

プリンタ追加画面に移ります。

(5) [名前]、[場所]、[説明]の項目を入力し、[次へ」をクリックします。

[場所]と[説明]は、任意の入力項目です。

(lp1は 日レセのデフォルトのプリンタ名です)。

4	æ				Adm	nin on loc	alhost -	CUPS	v1.1.23 ·	- Mozilla			_ 🗆 X
コン		<u>Eile E</u> di	it <u>V</u> iew	<u>G</u> o <u> </u>	<u>B</u> ookma	rks <u>T</u> oola	s <u>W</u> indow	<u>H</u> elp					
i			Book	D ( marks	S The		//localho	ost:631 atest B	∣∕admin/?c Builds	op=a	Search	3.	M
aus						mozrrra			arras				
		E	SP	管	理	クラス	ヘル	プ	ジョブ	プリング	メ ソフト	ウェア	
-		Admi	n										
	(	プリン	夕追加										
		名	前:[p1]						_				
		場	所:						-				
		説	明:										
			*	~									
	OFONO	Copyright Printing Coftware Dwners.	t 1993- System <u>Produc</u>	2004 , CUF <u>ts</u> . A	by Ea PS, ar 11 ot	nsy Softw nd the CU ther trad	are Prox IPS logo lemarks a	ducts, are t are th	All Rig the trade te proper	ghts Rese emark pro rty of th	erved. Th operty of meir resp	e Common E <u>asy</u> ective	UNIX

(6) [デバイス]メニューから[LPD/LPR Host or Printer]を選択し、[次へ]をクリックします。



(7) [デバイスURI]に「lpd://<プリンターの IP アドレス>/<キュー名>」を入力し、[次へ]をクリックします。

キュー名は、任意の名前を付けてください。

以下は、プリンターの IP アドレスが「192.168.1.21」で、キュー名が「queue\_1」の例です。



(8) [メーカ名]からプリンターのメーカーを選択し、[次へ]をクリックします。

以下は、「Ricoh」を選択した例です。



(9) [モデル名]から使用する機種(ドライバ)を選択し、[次へ]をクリックします。

以下は、「Ricoh RPDL IV Laser Printer Foomatic/rpdl (recommended)(en)」を選択した例です。



(10)以下のメッセージが表示されることを確認します。

プリンタ名[lp1]をクリックします。



(11)以下のような画面が表示されますので確認します。



# PostScript プリンタの場合の設定

標準的なポストスクリプトプリンタを使用する際には、

- メーカ名 : Generic
- モデル名: Generic Postscript Printer

Foomatic/Postscript(recommented)(en)

をそれぞれ選択してプリンタを追加します。
# プリントジョブ数の設定

同時に処理できるプリントジョブの最大数を変更します。デフォルトの設定はキュー当たり500ジョブですが、これを 制限なしに変更します。

gnome-terminal に戻って以下のコマンドを打ちます。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo perl -i.bak -p -e "s/^\#MaxJobs 500/MaxJobs 0/" /etc/cups/cupsd.conf

もしくはエディタで /etc/cups/cupsd.conf を編集して #MaxJobs 500 の # を消して 500 を 0 に変更します。

/etc/cups/cupsd.conf
# MaxJobs: maximum number of jobs to keep in memory (active and completed.)
# Default is 500; the value 0 is used for no limit.
# MaxJobs 500
↓

MaxJobs 0

その後 cupsd を再起動します。 orcatest:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/cupsys restart [Enter]

## Postscript(ポストスクリプト)プリンターの設定

ここでは、ポストスクリプトプリンターで印刷するための設定例を紹介します。 まず PostScrip プリンタの場合を参照して Web ブラウザから PostScript プリンタとして設定しておきます。 設定するプリンターは印刷キューの作成でプリンタ名を psl として作成したとします。

## (1) ディレクトリの作成

印刷関係の設定ファイル等を置くディレクトリを作成します。 この説明の中では/home/orca/printer/とします。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo mkdir /home/orca/printer [Enter]

### (2) ORCA 用 OCRB フォント、OCRROSAI フォントの設定

フォントは jma-fonts パッケージに含まれるようになりました。

以下の場所にフォントがインストールされています。

/usr/share/fonts/type1/jma-fonts/orcaocrb.ps

 $/usr/share/fonts/type1/jma-fonts/orcaocrr.\,ps$ 

このフォントファイルはポストスクリプトフォントファイルです。収容文字は'0'~'9'の10文字です。

株式会社 リコー様のご協力により作成していただきました。

次の内容のスクリプトファイル(/home/orca/printer/ps1-filter)を作成します。

#### #!/bin/sh

cat /usr/share/fonts/type1/jma-fonts/orcaocrb.ps /usr/share/fonts/type1/jma-fonts/orcaocrr.ps - -

#### 実行権をつけます。

orcatest:/home/orcauser\$ chmod +x /home/orca/printer/ps1-filter[Enter]

### (4) フィルターの設定

/etc/cups/ppd/ps1.ppd を編集します。 cupsFilter の内容を次のように変更します。

\*cupsVersion: 1.0
\*cupsManualCopies: True
\*cupsModelNumber: 2
\*cupsFilter: "application/vnd.cups-postscript 0 /home/orca/printer/ps1-filter"

## (5) cupsd を再起動します。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/cupsys restart [Enter]

#### (6) OCRB フォントのレセプト印刷

ORCAのシステム管理マスタの管理コード1031(出力先プリンタ割り当て情報)のプリンタ名をpslを設定します。 これで、レセプトを出力するとOCR部分もきれいに印刷できるはずです。

# 違うマシンのブラウザで設定するには

<Location /> と<Location /admin> で囲まれた部分に、アクセスを許可したいホストのアドレスを設定します。 例として 192.168.1.0 のネットワークに接続されたコンピュータから接続を許可するように設定します。 /etc/cups/cupsd.conf の該当部分を以下のように修正します。

<Location /> Order Deny, Allow Deny From All Allow From 127.0.0.1 Allow From 192.168.1.0/24 </Location>

<Location /admin> Order Deny, Allow Deny From All Allow From 127.0.0.1 Allow From 169.168.1.0/24 </Location>

### cupsd を再起動します。

orcatest:/home/orcauser\$ sudo /etc/init.d/cupsys restart [Enter]

## gs(GhostScript)の注意事項

Sarge には使用できる gs として gs-gpl, gs-esp, gs-ja(debain jp project)がありますが、このうち gs-gpl は日本語が使用できません。ただ依存関係により意識せずに gs-gpl がインストールされていることがあります。

パッケージ情報を確認して gs-gpl がインストールされていないか確認しましょう。

gs は update-alternatives で gs-esp を選択すれば、切り替えられます。

\$ sudo /usr/sbin/update-alternatives -config gs

There are 2 alternatives which provie `gs'.

Selection Alternative

-----

\*+ 1 /usr/bin/gs-gpl

2 /usr/bin/gs-esp

Press enter to keep the default[\*], or type selection number: 2

特に理由がなければ、gs-gpl は削除してまってもよいでしょう。

\$ sudo aptitude remove gs-gpl

このとき gs と gs-gpl が削除されると表示されます。gs はダミーパッケージなので、削除しても大丈夫です。

以下のパッケージが自動的に削除されます:

gs

以下のパッケージが削除されます:

gs gs-gpl

gs-esp (又は gs-ja) がインストールされていれば gs -v でバージョンが表示されますので、確認しておきましょう。 \$ gs -v ESP Ghostscript 7.07.1 (2003-07-12) Copyright 2003 artofcode LLC and Easy Software Products, all rights reserved.

## 更新履歴

#### 0.2版

・PostgreSQLのロケールが設定されてしまっていたので、Cに設定されるように手順を変更した

・PostgreSQLの initdb のやり直し手順を追加した

・医療機関IDの設定を追加した

- WindowManagerの設定を追加した
- ・全体のフォントを統一した
- ・cupsys-bsd が jma-receipt インストールのときにインストールされないことがあるので、明示的にインストールする ように変更した

・jma-fonts に PostScript フォントも含まれるようになったので、そちらを使うように変更した

・インストールの前にハードウェアチェックを追加

•x window system の再度自動認識をさせる場合を追加

・gsの注意事項について追加

### 0.3版

・PostgreSQL の initdb のやり直し手順を修正

・SSH のインストール手順追加

- ・かんな辞書について追加
- ・ORCA プロジェクトのソースパッケージの取得について追記
- ・jma-receipt-fdd, jma-receipt-opas のインストールについて追加
- ・2 台運用の設定手順を追加
- ・PostgreSQLの dump ファイルについて追加

・jma-receipt の設定項目についてキャプチャ画面を追加して書きなおし

·xmodmap について追加